

ジェイシフ

JSHIF

斎藤会長 年頭所感

第25回定時総会・第69回理事会

2013スポーツ&レジャーフェスティバル

第10回シンポジウム／第1回スポーツ振興賞

平成25年度情報交換会

第11回シンポジウム他

公益社団法人 スポーツ健康産業団体連合会

2014.1
No.60





年頭所感



公益社団法人 スポーツ健康産業団体連合会
会長 斎藤敏一

2020年夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催が昨年9月に決定し、日本中が沸き返りました。誠に嬉しいことです。世界中から集まる一流アスリートの技術・技能、華麗さはもとより、各国、各地域との国際交流が一層盛んになり、スポーツ産業にとっては大きく発展する原動力となることが期待されます。スポーツには夢や希望をもたらし、心をはらす大きな力があります。本年は冬季オリンピックとFIFAワールドカップの年です。2月には、2014年冬季オリンピックがロシアのソチで開催され、6月には2014 FIFAワールドカップがブラジルで開催されます。ワールドカップでは、日本は本戦に5大会連続5回目の出場となります。日本選手の活躍と我が国におけるスポーツの一層の盛り上がり期待されます。

健康産業では、政府が進める政策：「日本再興戦略ー市場創造プランー」の中で“国民の「健康寿命」の延伸”という文言が初めて現れました。効果的な予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し老いることができる社会に向け、健康寿命伸長産業の育成、予防・管理の推進に関する新たな仕組みづくり、医療・介護情報の電子化の推進などを実施するとしております。近年、国民の健康への関心が非常に高まっており、東京、大阪、横浜等全国各地で市民マラソン、ウォーキング等の大会が盛んに行われております。楽しんで運動する、スポーツすることこそが健康への最良の道と考えます。更に、国民の健康づくりのためには特定健診・特定保健指導の制度の一層の活用も期待されるところです。

本連合会では、昨年3月に第1回スポーツ振興賞の

表彰式を行いました。同賞は、スポーツを通じて地域振興に貢献したと認められる団体・グループ等を顕彰するもので、平成20年度に「地域・スポーツ振興賞」として創設し4回実施した後、平成24年度に一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構と共同で実施するために「スポーツ振興賞」に発展的に改称したものです。第1回スポーツ振興賞は、全国から41件と多数のご応募があり、「スポーツツーリズム賞」として観光庁長官賞1点、日本スポーツツーリズム推進機構会長賞1点、また、「スポーツとまちづくり賞」として経済産業省商務情報政策局長賞1点、日本商工会議所奨励賞1点、スポーツ健康産業団体連合会長賞1点、の授賞を行いました。現在、第2回目の募集をしております。

また、スポーツ人口の拡大とスポーツ産業の一層の振興のためにシンポジウムを2回、情報交換会を1回開催するとともに、例年実施しております市民生涯スポーツ大祭を静岡県で実施し、多数の県民のご参加をいただきました。調査研究事業では、経済産業省等のご支援により地域ヘルスケア構築推進事業として本年度は「医療マネジメントの標準化・可視化事業」を実施しております。昨年12月に開催されましたスポーツ・健康関連の日本最大の専門展示会「SPORTEC 2013」においては、当連合会はセミナーの開催を含め特別協力を行いました。

本年も事業計画に掲げた事業の実現を図り、スポーツ人口の拡大のためにスポーツの普及の振興はもとよりスポーツ健康産業の一層の発展に努めてまいります。皆様の益々のご発展とご活躍をお祈りし年頭の挨拶といたします。

第25回 定時総会

2013年6月11日(火)、東京都港区のスタジアムプレイス青山で第25回定時総会が開催された。代理出席及び委任状を含めた24名が出席。

議長に選出された斎藤会長が出席者に対して謝辞を述べ、平成24年度事業が無事終了したことを報告。さらに平成25年度事業計画の事業実施にあたっての協力をお願いした。また、「健康寿命」の延伸等、スポーツ健康産業に関わる経済産業省、経済団体の成長戦略についての動向を説明した。

議事録署名人の選出後、議事に入り、平成25年度の事業計画及び平成25年度収支予算書が報告された後、平成24年度の事業報告、平成24年度決算報告及び任期満了に伴う理事及び監事候補者などの案件が審議され、すべて可決承認された。

平成24年度 事業活動概要

- 事業部会 「第9回シンポジウム」「第10回シンポジウム」「情報交換会」「第1回スポーツ振興賞」
- 地域スポーツ振興部会「2012スポーツ&レジャーフェスティバル(財団法人JKA補助事業)」
- 広報宣伝・調査部会 「医療連携プロセス標準策定調査」。機関誌JSHIFの発行。
- その他の事業「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2013」「日本スポーツ産業学会への支援」他

第69回 理事会

同日、総会に先立って第69回 理事会が開催された。出席は、本人出席が17名で定足数(29名)の2分の1以上の出席があるため理事会は有効成立。斎藤会長が議長に指名された。

議長は出席者に謝辞を述べるとともに平成24年度事業が無事終了したことを報告。さらに平成25年度事業計画について十分な審議と事業実施にあたっての協力をお願いした。また、これまで特別協賛してきたSPORTECについて、今年からセミナー事業をSPORTECと共同運営することや、スポーツ振興賞事業等を続けていくことを報告した。

その後、シンポジウム、情報交換会、スポーツ振興賞、スポーツ&レジャーフェスティバル、医療連携プロセス標準策定調査及び機関誌JSHIFの発行などの平成24年度事業の活動について報告がなされ、全員異議なく拍手をもって承認された。引き続き審議に入り、平成24年度決算報告及び任期満了に伴う理事及び監事候補者(案)、部会構成メンバー変更などが諮られ、すべての議事が承認され、第69回理事会は終了した。

平成25年度 事業計画

- 事業部会 「シンポジウム」「情報交換会」「スポーツ振興賞」
- 地域スポーツ振興部会 「市民生涯スポーツ大祭(公益財団法人JKA補助事業)」
- 広報宣伝・調査部会 「機関誌JSHIF」「調査研究事業」
- その他の事業 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2014」「SPORTEC2013特別協力」「日本スポーツ産業学会への支援」他

役員名簿(平成25年6月11日現在)

役員名	氏名	勤務	団体・会社名	役職
名誉副会長	中野 啓二郎	非常勤	株式会社イースタンスポーツ	代表取締役会長
代表理事 会長	斎藤 敏一	非常勤	株式会社ルネサンス	代表取締役会長
業務執行理事 副会長	岩井 大助	非常勤	株式会社エバンニュー	代表取締役社長
業務執行理事 副会長	池田 朝彦	非常勤	公益社団法人日本ボウリング場協会	顧問
業務執行理事 副会長	原田 宗彦	非常勤	早稲田大学	教授
業務執行理事 専務理事※	板垣 勝男	常勤	公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会	専務理事
理事	大石 順一	非常勤	一般社団法人日本ゴルフ場事業協会	専務理事
理事	尾木 徹	非常勤	一般社団法人日本音楽事業者協会	会長
理事	尾山 基	非常勤	株式会社アシックス	代表取締役社長CEO
理事	加藤 誠	非常勤	株式会社ジェイティービー	観光戦略部長
理事	加藤 昌治	非常勤	ミズノ株式会社	常務取締役
理事	香中 峰秋	非常勤	株式会社博報堂	テーマ開発局局長代理
理事	栗山 雅則	非常勤	公益社団法人日本テニス事業協会	副会長
理事	佐々木 剛	非常勤	スボルテック株式会社	代表取締役
理事	重森 仁	非常勤	日本スポーツ用品協同組合連合会	理事長
理事	下光 輝一	非常勤	公益財団法人健康・体力づくり事業財団	理事長
理事	田中 喜代次	非常勤	筑波大学	教授
理事	丁野 朗	非常勤	公益社団法人日本観光振興協会	常務理事・総合研究所長
理事	杖崎 洋	非常勤	一般社団法人日本フィットネス産業協会	専務理事
理事	中島 順	非常勤	株式会社電通	ソーシャル・ソリューション局局長次長
理事	野川 春夫	非常勤	順天堂大学	学部長
理事	馬場 宏之	非常勤	一般社団法人日本ゴルフ用品協会	会長
理事	平野 哲行	非常勤	株式会社平野デザイン設計	代表取締役社長
理事	三ッ谷 洋子	非常勤	法政大学	教授
理事	三野 哲治	非常勤	公益社団法人日本パブリックゴルフ協会	会長
理事	山田 幸雄	非常勤	株式会社東京ドーム	常務執行役員
理事	渡邊 光康	非常勤	公益財団法人大崎企業スポーツ事業研究助成財団	理事
監事	鎌田 章男	非常勤	株式会社朝日広告社	執行役員
監事	小坂 勉	非常勤	千葉・小坂会計事務所	税理士

※専務理事 板垣 勝男 最終官歴 経済産業省関東経済産業局総務企画部次長



とびっきり!あさひテレビ祭り 2013スポーツ& レジャーフェスティバル



会期 2013年9月28日(土)、29日(日) **会場** 静岡市 葵スクウェア、青葉シンボルロード

主催 とびっきり!あさひテレビ祭り / スポーツ&レジャーフェスティバル運営委員会 (公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会・株式会社静岡朝日テレビ)

後援 経済産業省、文部科学省

スポーツ&レジャーフェスティバルは、さまざまなスポーツ種目を活用して、スポーツ意識の浸透を図ることをテーマに、地域を元気にしようこれまで全国各地で開催されてきた市民生涯スポーツ大祭です。各種のスポーツを手軽に楽しむことのできるイベントとして、ひろく地域の皆様に親しまれてきました。2013年は、昨年に引き続き、静岡市で開催しました。このイベントは静岡県民の心と健康づくりを図るとともに、「ふるさとしずおか」への郷土愛を育むことを目的としているもので、子供から高齢者まで幅広い県民の皆様の参加を得て、成功裡のうちに終えることができました。

「レジャー de 思い出 家族みんな de DO! スポーツ!!」をキャッチフレーズに 2013年スポーツ&レジャーフェスティバルは、青葉シンボルロードをメイン会場として開催しました。

期間中の観客動員数 延べ 26,300名

イベント	会場	28日(土)	29日(日)
開会式	青葉シンボルロードB1	1,500	—
bjリーグの選手に挑戦!		1,200	—
サイクルダッシュ		3,000	4,900
9フープス		3,400	4,100
ポケットゴルフ		3,800	4,400
合計入場者数		12,900	13,400

今回はプロバスケットボールチームのbjリーグ「浜松・東三河フェニックス」の選手に参加していただき、プロ選手の技術を紹介するとともに参加者の皆様に選手に挑戦していただきました。また、各種のニュースポーツ体験として、サイクルダッシュ、9フープス、ポケットゴルフの種目について障害者を含め、老若男女に楽しんでいただきました。

土曜日は会場からテレビの公開放送を実施し、お笑いタレントにニュースポーツを体験・中継してもらい、イベントの盛り上げに大きな効果を発揮しました。全てのイベントに子供からお年寄りまで参加していただき、スポーツ&レジャーフェスティバルのテーマであるスポーツ意識の浸透が図られた、充実した2日間でした。

—このイベントは競輪の補助金を受けて実施しました—

サイクルダッシュ

子どもから大人まで夢中になってトライ



9 ブース

プロバスケットボールチームのbjリーグ「浜松・東三河フェニックス」の選手もブースを訪れ一緒に楽しんだ



ポケットゴルフ

その難しさに、皆思わず真剣な表情に



天気もよく、会場は大にぎわい。人気のブースには長蛇の列



第10回シンポジウム

スポーツツーリズムと スポーツによるまちづくり!!

平成25年3月4日、東京都港区のスタジアムプレイス青山にて第10回シンポジウムが開催された。国の「観光立国推進基本計画」では、「観る」「する」「支える」スポーツのキーとしてスポーツツーリズムの推進が謳われている。今、全国各地でスポーツによるまちづくりの取組みが進んでいる。国土交通省観光庁審議官の加藤隆司氏をお招きし、観光立国日本の実現を目指す視点から「スポーツツーリズムの推進について」を講演いただいた。



加藤隆司氏

講演『スポーツツーリズムの推進について』
国土交通省観光庁審議官 加藤隆司 氏

第1回 スポーツ振興賞

スポーツツーリズムやスポーツによるまちづくりに大きく貢献した者を表彰する「第1回スポーツ振興賞」の授賞式が行われた。スポーツ振興賞は、前身の「地域・スポーツ振興賞」（平成20年度創設）を一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構[JSTA]と共同で実施するために、平成24年度にスポーツ振興賞に

発展的に改称したもの。

41件の応募の中から、当連合会の選考委員会で慎重・厳正に審議し、「スポーツツーリズム賞」として観光庁長官賞1点、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構会長賞1点、「スポーツとまちづくり賞」として経済産業省商務情報政策局長賞1点、日本商工会議所奨励賞1点、公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会会長賞1点が受賞。また、各受賞者からそれぞれの事業の成果について発表が行われた。

スポーツツーリズム賞

国土交通省観光庁長官賞



「スポーツコミッション」を活用した地域振興～日本一スポーツで笑顔あふれるさいたま市～

さいたまスポーツコミッション（埼玉県さいたま市）

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA) 会長賞



第2四半世紀を迎えたMt.鳥海バイシクルクラシック大会と地域活性化

矢鳥カップMt.鳥海バイシクルクラシック大会実行委員会（秋田県由利本荘市）

スポーツとまちづくり賞

経済産業省商務情報政策局長賞



「スポーツツーリズム」「スポーツによるまちづくり」を通じた産業・地域活性化の貢献～ゴミ拾いはスポーツだ～一般社団法人日本スポーツGOMI拾い連盟（東京都渋谷区）

日本商工会議所奨励賞



廃線でサイクリング!?!「自転車とレールで風になる」レールマウンテンバイク Gattan GO!! ガッタンゴー NPO法人神岡・町づくりネットワーク（岐阜県飛騨市）

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会会長賞



10市町村が主催し実現した日本最大の100マイルトレイルレース「ウルトラトレイル・マウントフジ」ウルトラトレイル・マウントフジ実行委員会（静岡県富士宮市）

スポーツ健康産業の振興と「SPORTEC2013」の展望を語る —SPORTEC はスポーツビジネスに関する 日本最大級のスポーツ総合展—

平成25年7月10日(水)、スタジアムプレイス青山にて公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会主催「スポーツ健康産業の振興とスポーツ総合展『SPORTEC2013』の展望を語る」と題したセミナーが開催された。経済産業省からは、国民の健康増進業務に携わる商務情報政策局サービス政策課課長補佐吉田敦子氏とヘルスケア産業課課長補佐 那須良氏が、そしてSPORTEC事務局事務局長 佐々木剛氏が講演を行い、ビジネスとして経済発展に寄与しつつ、国民の健康増進にいかに取り組むか、講演した。



左より、那須 良氏、
吉田敦子氏、佐々木剛氏

講師

「経済産業省のサービス・ヘルスケア施策について」

吉田 敦子氏 経済産業省商務情報政策局
サービス政策課課長補佐

那須 良氏 経済産業省商務情報政策局
ヘルスケア産業課課長補佐

「SPORTEC2013の取り組みと展望」

佐々木 剛氏 SPORTEC事務局 事務局長

最初に講演に立った吉田敦子氏は、スポーツ健康産業含め、サービス業は国内総生産で多くの割合を占めており、サービス業の活性化が地域経済の活性化および職の拡大にとっていかに重要であるかを述べた。そして、活性化には「まずサービスを提供する側の従業員満足が大きなポイントになる」と話し、経済産業省(以下、経産省)が主催する「おもてなし経営企業選」という取り組みについて紹介した。これは、1. 従業員を大切にしている、2. 地域社会に貢献している。3. サービスの差別化を実現している、という3つを実現している企業を「おもてなし経営」を行っている企業として表彰するものである。吉田氏は、前回選出された企業の取り組みを例に挙げ、従業員のモチベーションアップがサービス向上に大きく寄与することを説明した。選定された企業の取り組みについては、経産省のホームページから閲覧できるため、ぜひ参考にするとういだろう。

次に演壇に立った那須氏は、病気になる社会づくりのために、いかに国民にスポーツに取り組んでもらうか、また病気になった方が重症化しないようにするために、経産省が行っている取り組みについて紹介した。同氏は前者については、「SPORTEC」などの健康関連のイベントの活用などを、また、後者については次のように述べ、現在、新法において課題の解決を図っていることを説明した。

「医療機関と、民間運動施設などとの連携がうまくいけば、とても効果的だと思います。しかし、そこには現行制度との関係で整理しなければいけないルール

や、どこまでを医師の役割とするのかなど、グレーゾーンがあり、現在、厚生労働省とともに、新法のなかで解消を図っているところですよ」

さらに、国民を運動などの予防活動に駆り立てる策として、保険会社とともに開発したシミュレーションシステムを紹介した。これは、現在の生活習慣を入力すると、将来見込まれる医療費や生命保険料の増加分、体重の増加量と、それによって買い替えが必要になる洋服代などが算出できるものだ。これにより、本人に生活習慣の改善や運動の必要性に気づいてもらうことが狙いだという。

セミナーの最後は佐々木氏によって締めくくられた。数々の展示会をオーガナイザーとして開催してきた佐々木氏は、「展示会は、新しいビジネスチャンスが生まれる機会となるだけでなく、交通機関や飲食店など、周辺経済の活性化にも寄与します」と述べ、展示会がもたらす経済効果の高さを説明したうえで、「日本最大のスポーツ・健康施設活性化のための専門展・カンファレンスSPORTEC2013」について紹介した。昨年は、公共施設や学校まで、さらにターゲットを拡大。さらに、海外の健康関連の展示会とも提携し、台湾や韓国からの出展を獲得。アジアへの進出を狙う企業にとってはその情勢を知るよい機会ともなったようだ。

佐々木氏は、「SPORTECは、スポーツ関連の展示会としては日本最大級ですが、ドイツのFIBOやアメリカのIHRSAなどに比べたら、まだ1/3~1/2の規模です。まずはアジアNo.1を目指します」と、さらなる規模拡大を目指すことを誓った。

第11回シンポジウム

地域密着型スポーツビジネスを支える組織 —スポーツ推進組織について—

当日は多くの方が訪れ、熱心に講演に聞き入っていた

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会は、平成25年10月8日(火)、第11回シンポジウムとして、「スポーツビジネスを支える『スポーツ推進組織』について」を開催した。筑波大学体育系准教授 高橋義雄氏をコーディネーターに、株式会社アシックスや社団法人さいたま観光国際協会、国土交通省観光庁、東日本旅客鉄道株式会社から計4名のパネリストを迎え、スポーツ活性化策に向けて講演を行った。

高橋氏は、まず「スポーツビジネスに関する効果的な取り組みの要を担うのは、大きな施設を利用して行われるスポーツ関連の試合である」と述べ、一方で、日本のスポーツ資源が非常に乏しい実状であることを述べた。そして、「海外では、人を集められる仕組みを備えたスタジアム施設などが非常に充実している」と、海外のさまざまな施設を紹介した。

そのなかには、地下が巨大なショッピングセンターになっているサッカースタジアムや、高齢者専用の賃貸住宅が併設されているものなど、試合の開催に関わらず、常に地域の生活者が集える場となるよう、さまざまな配慮がなされていた。また、専任のスタッフがいるキッズスペースやバリアフリーのほか、実況解説が聞ける知覚障害者専用の座席の設置など、健常者から身体に障害がある方、子どもから大人まで、皆が一緒に楽しめる環境が整えられていることも、同氏は強調していた。

さらには、スイスにあるスタジアムでは、屋根にソーラーパネルを設置し、発生した電力を地元の電力会社へ供給しているほか、行政と協力して試合の観戦チケットを公共交通機関でも利用できるサー

ビスを提供し、これによって車での来場を減らしてCO₂削減にも貢献するなど、環境に配慮した取り組みもあった。

要するに、海外では施設を利用して、スポーツ観戦をビジネスとして成り立たせながら、人々の交流促進や環境対策など、その他さまざまな効果を生み出しているのだ。高橋氏は最後に、「2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に際して、海外の方が日本のスポーツ施設を訪れた際がっかりされないよう、日本でも施設整備を急ぐことが今、求められています」と述べ、講演を締めくくった。

■講師

高橋 義雄氏 (筑波大学体育系 准教授)

・パネルディスカッション

テーマ:「スポーツ推進組織」を設立し、適切に運営するには

■パネリスト

八木 和広氏

国土交通省観光庁 スポーツ観光推進室長

星野 正氏

(社)さいたま観光国際協会

スポーツコミッション事業担当 副参与

利涉 敏江氏

東日本旅客鉄道(株)

千葉支社事業部地域活性化PT 副課長

土方 政雄氏

(株)アシックス 取締役執行役員

アシックスジャパン(株) 常務取締役

マーケティング本部長

(コーディネータ)

高橋 義雄氏 前掲



コーディネーターを務めた
高橋義雄氏

事前予告

第12回 シンポジウム、第2回スポーツ振興賞表彰式

期日:平成26年3月3日(月) 場所:東京都港区 スタジアムプレイス青山

JSHIF2014.1No.60

発行 公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会

Japan Sports Health Industries Federation

〒107-0061 東京都港区北青山2-9-5 スタジアムプレイス青山10階 1009室

Tel: 03-6434-9510 Fax: 03-6434-9511

ホームページアドレス <http://www.jsif.or.jp/>

発行日 2014年1月15日

発行責任者 広報宣伝・調査部会 部会長 池田朝彦

編集協力 株式会社クラブビジネスジャパン

